⬇登場人物

校長先生

教頭先生

◆◆町の住人Ａ

（ナレーション）ここは、●●市◆◆町にある、特別支援学校です。ここには体にハンデがありながらも元気一杯に勉強する生徒・児童がたくさん通っています。あの、地震が起きたのは２０１０年３月１１日午後２時４５分でした。

（校長先生）まず教頭先生は、校内を見回って施設や設備に破損や故障がないか確認してください。他の先生は生徒達の所在と安全を確認してください。

（ナレーション）それからしばらく後

（教頭先生）校長先生、学校の建物はまだ竣工されたばかりの最新の校舎でしたから、あれだけの揺れでも全くどこも壊れませんでした。余震の事を考えて、子供達をそのまま体育館へ避難させますか？

（校長先生）しかし、うちの体育館は暖房完備の素晴らしい施設ですが、停電で肝心の暖房が使えません。冬ですから、板の間の体育館で暖房が無いのは子供達も寒くて可哀想でしょう。

（教頭先生）それでは、出発準備をしていたスクールバス数台に全員が分乗するのはいかがでしょう。バスは密封空間ですが、通学で使っている子たちが慣れていますし、柔らかい椅子があって暖房も使えます。それに、ラジオで外の状況を知る事もできるので良い避難所になります。

（校長先生）ではそうしましょう。先生方に支持して子供達をバスに乗せてください。それから保護者の方々に取り決め通り学校に子供達を迎えにきていただけるようメール通知を出していただけますか？インターネットは使えますか？

（教頭先生）停電はしていますが携帯電話でインターネットができるようなので、担当の先生にお願いして、メールを送付してもらいます。

※本用紙はコピーして使用してください。本用紙ではなく任意様式でも結構です。

（ナレーション）近所の方が何人か来ています。どうやら避難の相談のようです。

（◆◆町の住民Ａ）こんにちは。ここって避難所になってるんですかね。うちの年寄りも車椅子使ってるんだけど・・・。（注１）

（校長先生）すいません、実は私どもの学校は設立されたばかりですが、まだ市役所の策定する地域防災計画で指定避難所になっていません。それに、見ていただいている通り施設は壊れませんでしたが、停電で暖房器具が使えず、子供達もバスに避難させています。つまり、このままでは支援物資なども届かないですし、避難所とするには要件が足りません。

（◆◆町の住民Ａ）そしたらどこに避難すればいいんだろう。

（教頭先生）◆◆町の人は▲▲小学校になっていますが、障害のある方や高齢者は、隣接する保育所か幼稚園が福祉避難所になっているはずです。

（◆◆町の住民Ａ）でも、▲▲小学校は体育館

※コピーして使用してください。

が地震で壊れたって言って、避難所に出来ないみたいなんだよね。しかもうちの町内から指定避難所の小学校までは、車椅子を押して行くには遠すぎるんだよなぁ。しかも、坂道のはるか下にある。他の町内の人間も同じじゃないかなぁ。ここは、すぐ近くに病院もあるし、薬局もある。建物も綺麗で新しいから、立地で考えれば良いところなんだけどなぁ。

（ナレーション）実は、この日、市内では何カ所かの避難所が開かれました。帰宅困難者を収容する避難所や、停電で煮炊きが出来ない方々を収容する避難所がありました。多くの小学校の体育館が震災で使用不能となり、帰宅困難者の方々は、校舎に寝泊まりするケースもありました。

（校長先生）もし、今後より大きな余震等で地域の方々の避難が必要になった時は、断れないかもしれませんね。普段様々な方々に支援を受けなければならない子供達の施設が、逆に地域を支援する事ができる可能性があるってこと

※本用紙はコピーして使用してください。本用紙ではなく任意様式でも結構です。

ですね。

（教頭先生）しかし、停電している場合は水が使えませんから・・・。

（校長先生）それは他の学校も同じですしね。そういえば、うちの備品に発電機があったんじゃない？

（教頭先生）実は発電機はあるんですが、まだ誰も使った事がないので、使うとなると、どうしたら良いのか判らないんです。

（校長先生）この地域には自宅に井戸を持っている方々も多いので、いざ水が足りない時は、そういったお宅に貰いに行く事も考えなければなりませんね。いつも生徒の登下校を見守ってくださっている地元地区の皆さんに相談してみましょう。

（注１）【町長役の実務者談】　東日本大震災の際に特別支援学校に避難したとの報告は、住民から報告を聞いていない。しかし、指定避難所になっていないことは一つの地域の課題だ

※コピーして使用してください。

と考えており、課題を明確化するためにドラマに掲載した。

※本用紙はコピーして使用してください。本用紙ではなく任意様式でも結構です。

⬇登場人物

◆◆町の町内会長

◆◆町の住人Ａ

（ナレーション）ここは、●●市◆◆町にある、特別支援学校です。ここには体にハンデがありながらも元気一杯に勉強する生徒・児童がたくさん通っています。あの、地震が起きたのは２０１０年３月１１日午後２時４５分でした。

（◆◆町の住人Ａ）どうも、町内会長さんいる？

（◆◆町の町内会長）いやどうも。

（住人Ａ）いまよ、養護学校に行って来たんだけど。

（町内会長）うん。

（住人Ａ）あそこは県の施設とかで、市役所の指定している避難所じゃねーんだっちけか。

（町内会長）んだどな。まぁだ出来たばっかしだし。

（住人Ａ）いやよ、うちのばあさんが車椅子だっぺよ、んで家に居んのが怖い怖いっていうか

※コピーして使用してください。

ら、あそこに避難させてもらおうかと思って行ったんだけどよ、ダメだって言うからよ。ほれ、あそこは車椅子用のトイレとかもあっぺ。手すりもあるし、スロープもきちんとしてっしよ、ばあさんも使い易いんだよなぁ。

（町内会長）そうはいっても特殊な施設だからよ。年寄り用ってわけでも無いし。でも、校長先生も教頭先生もみんな話は判る人等だから、どうしても地域で避難所に使わせて欲しいっていう事だったら話もできっぺけどよ。

（住人Ａ）いやよ、本当の避難所は▲▲小学校の体育館だっぺよ。だけども、地震で使えなくなっちったんだと。んで、避難する人は他の学校とか、校舎側とか別なところに移されてんだと。だったらよ、新しくて安全なところを使わせてもらったってバチはあたんめーよ。

（区長）まあ、こちらの理論でいけばそーなるけども、あちらの都合を考えていないわけだから。あそこは、そもそも障害児のための学校で、その学校を運営するために障害者トイレが整備

※本用紙はコピーして使用してください。本用紙ではなく任意様式でも結構です。

されている訳で、高齢者のトイレにするためじゃあんめよ。

（住人Ａ）まあ、それはそうだけんども。でも実際問題としてよ、うちのばあさんの車椅子を押して▲▲小学校に行くだけで、すごく大変なんだよな。ばあさん、普段は家から出ないから、車椅子用になっている車も持っていないし。九〇歳超えてるから電動式のやつ買ってやっても乗りこなせねえしなぁ。

（町内会長）んだからよ、そういう事を学校じゃなくて、普段から役所に言っておかなくちゃダメなんだよ。先生等に言ったって、先生等も困っぺよ。

（ナレーション）そういうと町内会長はふうとため息をついた。そして庭にある桜の木を見つめながら

（町内会長）まあ、今から役所行くから、そのあたりの話を聞いてくっぺな。

（住人Ａ）そうけ？そうしてくれっと助かるよ。よろしくお願いします。

※コピーして使用してください。

（ナレーション）そう言うと、Ａはいたずらっぽい笑いを浮かべてエへへへとにやけてみせた。実は町内会長と特別支援学校は以前から交流があった。それは▲▲小学校の登校時間や帰宅時間に町内の老人や主婦が家の前の道に出て見守るという事を▲▲小学校で始めたのだが、同じ時間帯に支援学校の生徒も徒歩や自転車でその道を通るのだ。毎日毎日顔を併せて挨拶をしているうちに、純真無垢な生徒達はすっかり地域にとけ込んでいた。

（町内会長）まあ、役所と話をつけてあげられれば、先生方も喜ぶかもしんねえなぁ。

※本用紙はコピーして使用してください。本用紙ではなく任意様式でも結構です。

⬇登場人物

じゅん（障害児・車椅子移動）

みよこ先生

じゅんのお母さん

校長先生

（ナレーション）ここは、●●市◆◆町にある、特別支援学校です。ここには体にハンデがありながらも元気一杯に勉強する生徒・児童がたくさん通っています。あの、地震が起きたのは２０１０年３月１１日午後２時４５分でした。

（じゅん）そのとき、僕たちは授業がほとんど終わり、帰りの準備をしていたんです。ええとたしか３時１０分発のスクールバスに乗るはずでした。

＝地震の音＝

＝悲鳴＝

（じゅん）とにかく、すごい揺れでした。みよこ先生が僕の車いすをしっかりと持っていて

※コピーして使用してください。

くれたので、ケガをしなくてすみました。でも、揺れで倒れたり驚いたりして、泣いた子も沢山いました。僕もちょっと怖かったけど、泣きませんでした。

（みよこ先生）みんな大丈夫ですか？まだ揺れてるけど、この学校はまだ建てたばかりで丈夫ですから、壊れませんよ。大丈夫ですよ。先生と一緒にここにいてくださいね。先生もちょっと怖いけど、みんながいるから頑張れます。みんな頑張ろう。

（じゅん）なんだ、大人のみよこ先生も怖いんだ。でも、たしかにみんなといると頑張れるような気がしました。でも、このとき停電が起きて、学校の中の電気や暖房が全部止まっちゃたので、先生たちは大変だったみたいです。

（校長先生）みなさん、学校の中は暖房が効かなくなったので、スクールバスに乗ってください。先生方よろしくお願いします。

＝バスのアイドリングの音＝

（じゅん）僕たちはスクールバスに乗りました

バスの中は暖房が効いて温かかったし、みんな椅子に座ったらなんだか落ち着いたみたいでした。自転車や歩きで通っている友達もバスに乗りました。

（じゅんのお母さん）その時はパートから帰って来て、じゅんをスクールバスの停留所に迎えに行くために、車のエンジンをかけたところでした。

＝車のエンジンをかける音＝

停留所の場所は前年度のうちに決めてあります。うちの場合は車椅子を使っているので直接停留所まで送り迎えしていますが、お子さんによっては、一人で停留所まで歩いて来たり、ローカルバスや電車、民間のバスを併用して学校まで来ていますね。あまりに大きな地震だったので、先生がおっしゃっていた「大災害が発生した場合は学校にお子さんがいる時は帰さない、自宅にいる場合は来させない。」という言葉を思い出しました。それで、直接学校に迎えに行く事にしたんです。

※コピーして使用してください。

＝バスのアイドリング音＝

（みよこ先生）みんな、寒く無いですか？今、学校からみんなのお父さん、お母さんに、迎えに来てねっていうメールを出しました。いつも自分で帰るお友達も、今日はおうちの人が来るまで待っていてくださいね。おうちの人が来た順番から帰れるからね。」

（じゅん）最初にりょうちゃんのおじいちゃんが車で迎えにきて、りょうちゃんは手を振って帰っていきました。次に、みっちゃんのお母さんがやっぱり車で迎えにきました。みっちゃんは地震のあった時から泣いていたので、お母さんの顔をみてさらに泣きました。みっちゃんのお母さんはみっちゃんを抱っこしたまま、しばらくホラホラしていました。泣き終わったみっちゃんをお母さんが車に乗せた頃、今度は石田くんのお父さんが軽トラで来ました。石田君は自転車で来ているので軽トラの荷台に自転車を積んでもらっていました。そうするうちに、どんどんいろいろな友達のうちの人が来て、バ

スの中に残っている人は少なくなっていきました。僕のうちは停留所まで３０分かかるところなので、お母さんが学校に来るまではきっと１時間くらいかかります。

＝車の運転音＝

（じゅんのお母さん）子供が不安がっているのではないかと思って、早く迎えに行きたかったのですが、通りのそこかしこで渋滞が発生していました。イライラしていると、学校から割合近いところに住んでいるママ友から、既に迎えにいった事や、うちの子供がバスで待機していた事などがメールで届き始めました。気持ちは焦るばかりですが、一向に前に進みませんでした。また学校の前の裏道に入っても、路上に瓦が散乱していてパンクするのではないか？と不安になり速度を出す事は出来ませんでした。

＝バスのアイドリング音＝

（みよこ先生）じゅんくんは強い子なので、時々起こる余震で怯えたり泣いたりするお友達をなだめたり、話しかけたりしながら、次々

※コピーして使用してください。

と帰っていくのを笑顔で送り出していました。が、やはりお母さんの車が見えた時は嬉しかったんですね。満面の笑みでした。

（じゅん）お母さんの車が見えた時は「やった！」って思いました。お母さんは着くなり僕の頭をぺろんと撫で「遅くなってごめんね」と言いました。「だって遠いからしょうがないよ」と言うと「そうだね」って言いました。それから僕とお母さんは先生達に挨拶をして学校を出ました。

＝自動車のドアを閉める音＝

＝エンジンをかける音＝

（みよこ先生）

じゅんくんのお母さん達から学校までの道路に瓦が落ちている話や通りで渋滞が起きている場所等を聞き、保護者への一斉メールでお知らせしました。

（じゅんのお母さん）自分が学校に伝えた交通事情等を反映したメールがすぐに送られてきました。学校の真摯な態度に頭が下がりました。

特別支援学校の先生方は、子供達一人一人の個性をきちんと理解する努力をしてくださいます。災害時には本当にそれを痛感します。

（校長先生）特別支援学校の生徒は、それぞれ障害の度合いや種類が違いますし、個性も豊かですので、児童・生徒ごとに違う対応が必要になります。ですから、入学時から卒業まで担任と保護者の皆様は面接や話合いを行って、いつも個々の対応について協議しています。また、一般の小中学校と違い自治体を超えた広い地域から生徒が集まります。そのため、保護者が地区ＰＴＡという組織をつくり、活動してくださっています。

※コピーして使用してください。

⬇登場人物

山田先生

バスの運転手

（ナレーション）ここは、●●市◆◆町にある、特別支援学校です。ここには体にハンデがありながらも元気一杯に勉強する生徒・児童がたくさん通っています。あの、地震が起きたのは２０１０年３月１１日午後２時４５分でした。子供達を分乗させたバスの一台では、こんな会話がなされていました。

（山田先生）いやぁ、出かける前で良かったですねぇ。出かけちゃった場合は、携帯で連絡するしかなかったし、携帯が通じない場合は、全部のバス区間を確認しに行かなくてはならないところでしたよ。

（運転手）そうですよねぇ。それに私たちも今回のような状況だと、停留所に時間通りに到着できるか判りませんし、保護者だって時間通りに迎えに来れるかどうか判りませんしね。

※本用紙はコピーして使用してください。本用紙ではなく任意様式でも結構です。

（山田先生）子供達の乗車時間等も考えると九〇分以上拘束されるのは避けたいですからね。そのために、全ての生徒が九〇分以内で到着できる路程を毎年作り直しているわけですからね。路程図を作る時に、パソコンで停留所を決めて行けば自動的にルートと時間算定ができるソフトがあれば良いんだけどなぁ。

（運転手）そうだよなぁ。先生は毎年子供達が卒業したり入学したりして入れ替わる度に、話し合いをしてルートを作り直してるんだもんなぁ、大変だよねえ。

（ナレーション）そう言うと運転手は、大きく息を吸い込んだ。

（山田先生）うん、ルートづくりも大変なんだけど、実は一番大変なのは、新規の停留所の場所の確保なんですよ。例えばコンビニの敷地の一角を借りるとか、駐車場の敷地を借りるとかの場合は、経営者や地権者の協力が必要ですし、道路の路側帯を利用させてもらう時は、役所との調整が必要だし、毎年それを何カ所もやらな

※コピーして使用してください。

くてはいけないので。

（ナレーション）そう一気にまくしたてると、先生も大きく息を吸い込んでからゆったりと椅子に座った。先ほどまでワイワイしていた子供達だったが、ちらほらとお迎えにくる保護者が出て来ると、皆おしゃべりをやめて、自分の保護者が迎えに来るのを窓におでこをくっつけて見守っている。

（山田先生）あ、りょうちゃん迎えに来たよ！りょうちゃん、うしろ？りょうちゃん、お爺ちゃんが迎えに来たよ。さあ、行こう。

（運転手）りょうちゃん良かったね。じゃまた来週ね。バイバイ。

＝バスのドアが開く音＝

（運転手）りょうちゃん、バイバイ。・・・いつも思うんですけど、やっぱり家族が来るとどの子も本当に嬉しそうなんですよねぇ。

（山田先生）私たちは家族にとって宝物に等しい子供達を預かっている訳ですから責任がありますよね。もし出かけた後に地震が起きてしま

※本用紙はコピーして使用してください。本用紙ではなく任意様式でも結構です。

っても、安全確認が出来る迄はその場で待機してくださいね。二次災害が起こってしまったらそれこそ学校も保護者も運転手さんも運転手さんの会社もみんな悲劇ですから。

（運転手）そうですよねえ。本当に気をつけます。

※コピーして使用してください。

⬇登場人物

市役所の担当者

町内会長

（ナレーション）ここは、●●市◆◆町にある、特別支援学校です。ここには体にハンデがありながらも元気一杯に勉強する生徒・児童がたくさん通っています。あの、地震が起きたのは２０１０年３月１１日午後２時４５分でした。翌日、地元の町内会長は●●市役所に出かけました。市役所の庁舎に到着すると、入り口横ではすでに社会福祉協議会がボランティアセンターを設置していた。災害対策本部は二階に設けられていたが、あたりは騒然として、誰が何の担当なのかもしばらく見ていましたが定かに判りませんでした。（注２）

（町内会長）あの、すいません。

（担当者）はい、どういったご用件でしょう？

（町内会長）◆◆町の町内会長なんだけども、特別支援学校の件についてお話ししたい事があ

んだけど。

（担当者）特別支援学校ですか？障害福祉の話でしたら福祉部（注３）の障害福祉課が担当になりますので、階数が違います。エレベーターで・・・

（町内会長）いや、んじゃなくて、特別支援学校を地域の避難所に指定が出来ないかという話を聞きにきたんですよ。

（担当者）はあ。と言いましても今現在市内の被災状況の把握で見た通りの状況で・・・少々お待ちください。

（ナレーション）その担当者は奥に座っている総務部長やら福祉部長やらと何やら話していましたが、すぐに戻って来て

（担当者）その件に関しては、特別支援学校は県の施設なので、後日、県や市などの関連部局を呼び集めて検討させていただきます。検討の進捗や結果について、ご連絡いたします。

（ナレーション）話がついたのか、つかなかったのか、白黒はっきりしない微妙な返答で、町

※コピーして使用してください。

内会長はすっきりしない心持ちで帰路につきました。そしてそんな事があったのすら忘れかけた頃になって、会議が開催されました。

（ナレーション）その後、特別支援学校は避難所ではなく、福祉避難所として市の地域防災計画に盛り込まれる方向となりました。福祉避難所という対象者を絞った緊急施設にする方が、学校にとっても地域にとっても良い効果がありそうです。福祉避難所に指定されれば、支援物資や給水車の手配もされるようになるので、支援学校の保護者や生徒にとっても有事のメリットは高まります。Ａさんのお宅のおばあちゃんのように、自立歩行が出来ない高齢者も、福祉避難所なら身を寄せる事ができます。また、身重なお母さんや、小さなお子さんも同様です。今後、特別支援学校は障害児の教育機関としてだけでなく、地域と共に歩み、地域に愛される、そんな場所に変わっていきそうです。

※本用紙はコピーして使用してください。本用紙ではなく任意様式でも結構です。

（注２）【市役所役の実務者談】　災害翌日に町内会長が市役所に来るのは、地元が大変な状況となっていると思います。本ドラマは地域防災計画の変更の話となっておりますが、現実の大災害が起きた場合は、すぐに避難所の開設をしてほしいという要望を強く言われると思います。

（注３）【市役所役の実務者談】　役所では、ご要望を把握・確認してから、担当課を案内しております。

※コピーして使用してください。